

盛岡県北

本社 019(654)12
 紫波支局 019(672)28
 二戸支局 0195(23)80
 八幡平支局 0195(78)81
 岩手支局 0195(62)32

販売店

加賀野	にのへ
(622)4942	(22)11
こずかた	きんたい
(624)2554	(27)30
北部	御返地
(622)5536	(26)26
本宮	浄法寺
(635)0185	(38)22
太田	いちのへ
(659)1056	(33)20
築川	奥中山
(666)2355	(35)25
せいなん	軽米
(638)4530	(46)22
都南	九戸
(638)1822	(43)36
乙部	大更
(696)3651	(75)15
矢巾・水本	平館
(697)2030	(74)28
矢巾・金子	安代
(697)2200	(72)33
紫波	田山
(672)3111	(73)23
西部	川口
(699)3333	(65)20
大差	いわて沼宮
(687)4168	(62)22
小岩井	いわてま
(686)2422	(62)19
磐石	元木
(692)2059	(66)03
菓子	葛巻
(688)4080	(66)27
滝沢	江刈
(688)4519	(68)24
好摩	
(682)0304	

「次の弾で死ぬかも」

佐藤さん(盛岡)戦争経験語る

講演会



身ぶりを交えて戦時中の体験を語る佐藤忠三さん(右)

盛岡市の一般社団法人ここのは医療研究所(松嶋大所長は10日、戦時中に北海道で従軍した佐藤忠三さん(95)＝同市中堤町IIの講演会を同市上田の岩手大銀河ホールで開き、市民ら約50人が平和の尊さをかみしめた。同研究所の市民公開講座として開催。フリーアナウンサーの落合昭彦さんを聞き手として開催。フリーアナウンサーの落合昭彦さんを聞き手として開催。

「き手に、佐藤さんが戦時体験談を語った。花巻農学校卒業後、鉄道省に就職し、徴用令状を受けて1944年に従軍した佐藤さん。十分な武器もなく米軍機の攻撃を受け「次の弾で死ぬかもしれない」と思い、生きた心地がしなかった」と振り返った。

正しい戦況などは知らされなかったといい、敗戦時には「残念で悔しくて涙が出た。死ななくていいんだと安心した」と当時の複雑な心境を語った。

参加した千葉愛莉さん(仙北小6年)は「戦争が思っていた以上につらいことだったと感じた」、下館沙羅さん(同)は「当時の教育が命を尊重するものではなかったことに驚いた」と思いをはせた。

プロの演奏に小中学生刺激

親子が吹奏楽体験 小中学生がプロの演奏家



社会人プラスバンドのメンバーに教わりながら、トランペットなどの楽器に挑戦する子どもたち

同市出身のトランペット奏者佐々木駿さん(34)や市内の社会人らが所属する吹奏楽団「パシフィック・ブラス・オルケスタ」の団員らが講師となり、フルートやホルンなどの楽器の形や音の特徴を学んだ。子どもたちは実際に楽器を演奏し、音の出る仕組みや響き方を体感した。

ピアノを習って4年になる佐々木優羽さん(見前南小2年)は「ドラムとサックスの音がカッコよくて好き。ジャズの曲を演奏できるようにになりたい」と刺激を受けていた。

人工知能を導入 安心老人ホーム

津志田で内覧会 栗石町や盛岡市で高齢者施設などを運営する同町柿木の航和(佐々木航社長)

15日、同市津志田町に住宅型有料老人ホームを開設する。人工知能(AI)を導入した居室もあり、入居者の安心や職員の負担軽減に効果が期待される。

8～10日は施設の内覧会を実施。来場者の注目は音声に反応するAIを導入した居室「スマートルーム」。話し掛けると、照明やテレビの点滅の動作を行うほか家族とのテレビ電話も楽しめる。スマートルームは全個室30室のうち現在は1部屋だ(669)へ。



初導入した人工知能(AI)が音声に反応して照明の点滅などを行うスマートルーム

ブラジルで味の外交官

盛岡の吉田さん(専門調理師)

盛岡市南仙北の専門調理師吉田真紀さん(45)は、ブラジルの在マナウス日本国総領事館の公邸料理人として今月中旬赴任する。総領事と会食する要人らゲストをもてなす「味の外交官」の役割を担う。女性の挑戦は少なく、日本の良さを伝える料理作りに意欲を燃やす。

公邸料理人に赴任へ

マナウスはブラジル北西部アマゾナス州の州都で人口213万人。任期は2、3年が見込まれ、現地での仕事は総領事の食事作りとゲストを招く会食やパーティー時の料理作り。自身は洋食専門だが、すしや天ぷらなど和食の提供も求められる。料理で日本外交を支える立場だ。

高卒後、専門学校で調理師資格を取得。1994年12月、ホテルメトロポリタン盛岡に就職、洋食部門で腕を振るった。2004年4月から盛岡誠桜高食物調

師資格を取得。1994年12月、ホテルメトロポリタン盛岡に就職、洋食部門で腕を振るった。2004年4月から盛岡誠桜高食物調



福祉の現場も働き方改革 就職総合フェア

福祉の就職総合フェア(県、県福祉人材センター主催)は10日、盛岡市菜園のホテルニューカーリナで開かれた。県内の福祉施設や事業所の人手不足は深刻な状況にあり、各事業所は仕事のやりがいや現場の働き方改革を熱心にアピールした。県内に事業所のある50法人が参加。来年春に卒業する学生た

ちが各事業所のブースを回り、仕事のイメージを膨らませた。東北福祉大3年の高橋瑠夏さん(21)は「社会福祉士の仕事に興味があるので現場で働く人の話をじっくり聞きたい」と意欲的だった。福祉の職場は高齢者介護や障害者施設、保育園など幅広く、資格の取得方法なども担当者が助言した。

県社会福祉協議会の島山泰彦・福祉人材センター所長は「人手が不足する中、高齢化などで現場の仕事のニーズは今後も増える。フェアを通じて福祉の仕事を知ってほしい」と願う。



福祉の仕事について学生らに紹介する事業所の担当者